

和歌山病院 ニュース

第2号(季刊誌)
平成13年1月
編集発行
国立療養所和歌山病院



ウメ(バラ科)
(生薬名:鳥梅、白梅花)

醍醐天皇の頃、右大臣であった菅原道真が太宰府に流される時、自庭の紅梅を愛おしんで、「東風吹かば 匂い起こせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」と詠んだのは有名。その後、庭の梅が太宰府に飛んで根付いたといふ「飛梅伝説」が生まれ、以後梅は天満宮や天神様の象徴となった。また松竹梅を吉祥のものとしたのは中国で、梅は嬉しい春を一番に告げる花としてめでたい木とされたようだ。

日本を代表する味「梅」、は和歌山県花となっており、田辺市を含む紀南地方は日本一の梅の産地です。

紀州の梅には、「古城梅」「南高梅」などの品種があり、これらは、肉質柔軟で、香りもよく、種が小さく、果肉が多いのが特徴で、解熱、鎮痛作用があり、含まれるクエン酸、コハク酸、リンゴ酸、酒石酸などの有機酸が多いため、清涼感があって食欲を増進し、唾液や胃液の分泌を促進するので健胃薬ともなります。

目次

コラム	『聴診器』 病院長	2
質問箱	循環器(動脈硬化、狭心症)	2
呼吸器科の紹介		3
病棟紹介	5 病棟	3
今回の“なんでー”	なんで一病院には面会時間が決められているの?	4

職員一同は、患者様の権利と立場を尊重し、地域と密着した『安心と信頼をいただける病院』を目指します。

＊＊ 呼吸器科の御紹介 ＊＊

呼吸器科は呼吸器疾患を対象とする診療科です。呼吸器疾患とは、のどから（のどの入口は耳鼻咽喉科の対象となります）肺までの病気で、症状としては、主に咳・痰がでる・痰に血が混ざる・呼吸が苦しい・胸が痛むなどがありますが、まれに症状はないが体がだるい、熱が続くなどの症状で呼吸器疾患が見つかることもあります。また、地域や職場の胸部レントゲン検診で異常を指摘され精密検査が必要となる場合もあります。主な疾患としては、急性肺炎、咳・痰・呼吸困難が続く慢性気管支炎や肺気腫・気管支喘息、特に動いた時の呼吸困難を特徴とした肺せんい症、職業やアレルギーと関連したアレルギー性肺疾患、近年男性だけでなく女性にも増えてきた肺癌、ニュースでも伝えられている肺結核、また最近注目されているいびきが大きく、眠ったときに息が止まってしまう睡眠時無呼吸症候群などあります。

診断のためには、十分な病状の聞き取りからはじまり、胸の聴診、検査としては血液検査、胸部レントゲン、断層CT撮影、肺活量などの呼吸機能検査、必要に応じ気管支内視鏡、睡眠時無呼吸症候群に対しては睡眠検査を行い、その他必要な検査を加え、適切な診断のもとに治療を行っています。

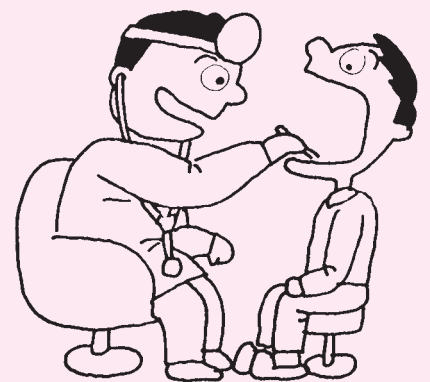
当院呼吸器科は6名の呼吸器内科医と3名の呼吸器外科医からなり日常の診療を行っています。週1、2回の内科・外科・放射線科による症例検討会により、診断計画、治療方針の決定を行います。呼吸器外来は月曜日から金曜日まで毎日行い、毎金曜日の午後は睡眠障害外来を行っています。疾患の診断や、診断後の初期治療を行い、またすでに治療を行っている方の症状悪化を防止するため入院が必要となる場合があります。その他特に呼吸器病棟では、慢性呼吸器疾患の患者様の呼吸困難などの症状緩和をめざした呼吸リハビリテーションまた肺癌の患者様の初期治療から終末期医療まで包括的な対応を行っています。病棟では医師・看護婦はもちろん理学療法士・薬剤師・栄養士などを含めたチーム医療を実践しております。

当院では、いままでの地域でのかかりつけの先生が入院後も直接病院に来ていただき、病状についての検討を行う開放型病院システムを行っており、退院後も十分な情報交換のもと安心してとの先生に診ていただくことが可能です。



＊＊＊ コラム 「聴診器」 ＊＊＊

漫画で描かれる医師は白衣を着て、首に聴診器をぶら下げている。医師のシンボルともいえるこの簡単な医療機器は随分古くから使われていたと思われがちだが、その歴史はそれほど古くない。紀元前、医聖ヒポクラテスの時代から19世紀初頭まで、医師たちは患者様の胸に直接耳を当てがっていた。柔らかい乳房の上に頭を当ててスヤスヤと眠ってしまった医師がいたという逸話が残っている。1816年、フランスの医師ラエンネックはあまりにも豊満な乳房の女性を前にして、思わず手近にあった紙を丸めて患者の胸に当てて聴診した。これが聴診器の始まりである。初期の頃は木製で中をくり抜いた筒で、次いでラッパ型の補聴器が開発された。現在のように両耳を使う聴診器はずっと後の発明である。



構造こそ簡単であるが聴診器は実に優れた集音能力を持っている。医療機器の発達していなかった昭和初期の先輩たちは、当時の国民病であった結核の小さな空洞の存在を聴診器で聞き分けたといわれている。その優れた集音機能の故に、聴診器を当てているときに患者様がおしゃべりを始めるとお手上げになる。「黙っていて下さい」というのも失礼になるので、「ハイ、大きく息を吸い込んで下さい」とお願いする。息を吸いながらおしゃべりは出来ないので、これで診察はうまくいきます。

病 院 長

病棟紹介（5病棟）

当病棟は肺炎、肺ガン、肺気腫、慢性気管支炎など、主に呼吸器疾患の患者様が入院されています。私たち17名の看護スタッフは3交替制の勤務で、食事、排泄、清潔、車椅子での移動などの日常生活援助を中心としたケアを、個々の患者様の状態に合った方法で24時間お世話させていただいています。その中で特に呼吸器疾患の特徴であります、呼吸困難・せき・たん等の症状に苦しむ患者様には、症状を最小限に抑えられるような動作の工夫や呼吸法、排たん法を用いた援助を行っています。また病気になられた患者様とそのご家族の苦悩を少しでも分かち合い、より安楽な日常生活が送れる手助けをしたいと願っています。

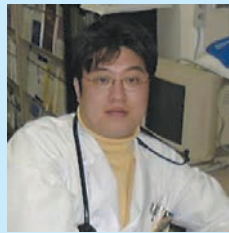
最後に私達は、看護職とはサービス業であると考えています。今後も私達5病棟スタッフは患者様の症状・苦痛が少しでも緩和され、安心して入院・療養できる環境を提供していきけるよう努力いたします。



駿田医長



平井医長



小野医師



川邊医師



上田医師



畠 医師



西田医師



西山医師



質問箱(循環器・動脈硬化、狭心症)

《皆様からお寄せいただいた質問にお答えするコーナーです。》

Q : 最近、友人が狭心症で治療を受けるようになりました。「胸が痛くなることはないか？」と聞かれ、自分も同じ年代であり気になります。どんな病気でしょうか？

A : 狭心症は、心臓病として虚血性心疾患に分類されます。虚血性心疾患とは心臓の筋肉(心筋)に血液を送る冠動脈という血管が細くなって、血液の循環がわるくなり、胸の痛みや圧迫感、締め付けられる感じなどを起こす病気です。

血液の流れが途絶え心筋が壊死することを心筋梗塞といい、一時的に血流が悪くなり症状が出る時を狭心症といいます。冠動脈が細くなる原因の多くは成人では動脈硬化ですが、動脈硬化が少なく血管がけいれん(冠れん縮)して細くなる場合もあります。

症状は先に述べたように胸痛や圧迫感、締め付け感などがありますが、人それぞれ違いますし、ときには全く症状のない時もあるので注意が必要です。また、似たような症状をおこす全く違う病気もあるので慎重に考えてみることも大事です。

通常は、スクリーニング検査として胸部レントゲン、安静時心電図、血液検査などを行いますが、さらに心エコー検査、運動負荷心電図(トレッドミル検査など)心筋シンチグラフィなどを行い、これらの結果をふまえてより精密な検査として心臓カテーテル検査(冠動脈造影など)を行うこととなります。

治療としては薬物療法、カテーテルなどによる治療(PTCAなど)、冠動脈バイパス手術などがあり、病状により選択あるいは、組み合わせ治療を行います。次の機会にまた検査や治療方法について詳しくお話ししたいと思います。

外来診療担当表

平成13年1月4日現在

	月	火	水	木	金
第1診	(総合外来) 西村	(胸部外科) 西田	(脳内科) 間	(総合外来) 西村	(胸部外科) 西田
第2診	(胸部外科) 平井	(呼吸器専門外来) 小野	(呼吸器・内科) 上田	(胸部外科) 平井	(呼吸器専門外来) 西山
第3診	(循環器・内科) 楠山	(循環器・内科) 水越	(呼吸器専門外来) 駿田	(循環器・内科) 楠山	(循環器・内科) 豊田
第5診	(循環器・内科) 豊田	(循環器・内科) 今西		(循環器・内科) 森脇	(循環器・内科) 水越
第6診	(呼吸器専門外来) 駿田		(神経内科) 広西 (隔週)	(呼吸器専門外来) 川邊	午前(神経内科) 近藤(隔週) 午後(睡眠障害)
小児科	佐藤	島津	アレルギー外来	佐藤	島津
放射線		池田		池田	
検査	心エコー	心エコー 内視鏡		心エコー 腹部エコー 内視鏡	心エコー

上記の診察日は休暇や学会出席等で変更することがありますので、詳しくは受付窓口でご確認ください。

診療科目 内科・呼吸器科・循環器科・小児科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・放射線科

受付時間 午前8時30分から午前11時30分まで

(睡眠障害外来は毎週金曜日の午後1時30分から午後4時まで)

面会時間 午後1時から午後8時まで

今回の“なんで”

なんで一病院には面会時間が決められているの？

今日は大安なので朝からお見舞いに行こう！！

そう思い病院へ行くと「今は面会時間ではありません」と言われた経験はありませんか？

時間は異なりますが、ほとんどの病院では面会時間が定められています。

「なんで一午後からのの？」と思われるかもしれませんが、午前中は医師の診察や傷の消毒、点滴、注射等の治療が行われています。また、病状や苦痛がやわらぎ、より快適に入院生活を過ごしていただくためにお風呂に入れられない方の身体を拭かせていただいたり、髪を洗ったりさせていただいています。

このような理由により午前中の面会は、ご遠慮いただいています。規則正しい入院生活を送り身体を休めるのも治療のひとつになります。お見舞いは患者様が疲れないう程度にさせていただくと良いかと思えます。



ホームページアドレス
<http://www.hosp.go.jp/~wakah/>

国立療養所和歌山病院
 〒644-0044 和歌山県日高郡美浜町和田1138
 電話番号 (0738) 22-3256
 FAX (0738) 23-3104